

第34回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード 議事要旨

1 日時：令和3年6月22日（火）10:00～11:30

2 開催方法：WEB会議

3 出席者：（委員）

◎黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）

○戸谷 好秀（独立行政法人統計センター特別参与）

兼川 真紀（弁護士）

亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）

齋藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）

名越 健郎（拓殖大学海外事情研究所教授）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

加瀬 徳幸 官房審議官

山口 真矢 管理室長

4 議事次第

- ・令和3年度平和祈念展示資料館運営委託業務のポイント
- ・平和祈念展示資料館における新型コロナウイルス感染症に係る対応
- ・令和2年度平和祈念展示資料館運営業務実施報告について
- ・令和3年度平和祈念展示資料館運営事業計画について

5 議事要旨

令和3年度平和祈念展示資料館の運営委託業務のポイント及び新型コロナウイルス感染症に係る対応について事務局から説明。続いて、令和2年度平和祈念展示資料館運営業務実施報告及び令和3年度平和祈念展示資料館運営事業計画について委託業者から説明。その後、質疑応答及び意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- 緊急事態宣言発令期間中、新型コロナウイルス感染拡大等の記録に留めるべき事態が発生しておらず、平和祈念展示資料館もよく努力し運営していると思う。
- 言語の翻訳（中国語・韓国語）については、歴史認識問題に関わるテーマなので、いろいろな意見が出てくるのはやむを得ないと思う。学術的、客観的

にどのように展示・表現するのが大事なので、引き続き研究、検討をしていただきたい。

- 地方の資料館、研究者と積極的に交流していくと良いのではないか。得られた情報などを地方展だけでなく、平和祈念展示資料館でも展示や解説に生かされると来館者により興味を持ってもらえるのではないか。
- 過去の巡回展のご縁で、展示方法や資料保存のアドバイス依頼等があり、活動の種を蒔いてきたことが芽を出し始めた、という報告は喜ばしい。
- 近年、デジタル発信に力を入れているが、デジタルと同時に企画展のパンフレットやオリジナルグッズなどのアナログ的なコミュニケーションも併せて展開することで大きな効果が上がるだろう。
- 今後の広報は SNS だけでなく、新聞・雑誌などの媒体を使って世代別に合わせた広報展開を行っていく必要があるのではないだろうか。
- オリジナルグッズの開発・配布は、マーケティングや広報の世界でも効果があると言われているモノ・コミュニケーションとして有効なので、引き続き、力を入れていただきたい。
- 若い人に向けたコミュニケーションの展開として、将来的に、平和祈念展示資料館に結びつく愛称やシンボルマークを検討してはどうか。
- デジタル平和祈念展示資料館の運用にあたっては、予告も含め、SNS 等で広く広報していただきたい。
- デジタル平和祈念展示資料館のサイトは見せたいポイントを絞って明確にして作った方が、見る人には親切であり、工夫が必要だろう。
- 今後作成する YouTube の映像コンテンツにおいて、視聴する時間が長くないよう考慮が必要だろう。

（ 本議事要旨は、総務省大臣官房総務課管理室において作成した。
速報版であり、今後、修正する場合がある。 ）